

新春の挨拶

鹿児島市医師会病院 院長 大迫 政彦



明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。

昨年は、トカラ列島の地震、桜島に加えて新燃岳の活動活発化、霧島地区の豪雨災害など、県内では多くの災害に見舞われました。近い将来に必ず起こると予想されている南海トラフ地震や桜島大爆発時の医療体制整備について、会員の皆様と共に準備を進めて参りたいと考えております。

大阪では50年ぶりに万国博覧会が開催され、世界中から多くの人々が訪れました。開催前には様々なことが危惧されましたが、終わってみれば多くの感動を残したようです。県内でも外国人の姿を多く見かけるようになりました。日常医療においても、多言語化に加え、提供する食事にも個々の宗教への対応が顕在化し、それに対応した環境整備の必要性が求められてきました。

秋にはノーベル賞の受賞にわきました。今回は医療、健康に関連する受賞が重なり、一層興味を引くこととなりました。生理学・医学賞では坂口志文教授の「制御性T細胞」の発見と実地医療への応用が脚光を浴びました。化学賞を受賞された北川進教授の研究は地球温暖化に影響する二酸化炭素などの回収への寄与が報道され、健康被害のみならず疾患の治療にも貢献することを期待しております。

さて、今年は60年に一度の丙午（ひのえうま）。「丙」は、十干のなかでは火の要素を持っており、明るさ、太陽や生命のエネルギーを表しています。「午」は、古来より人とともに生き、人を助けながら、強い独立心を持

つといわれています。よってエネルギーに溢れ、勢いのある活動的な年になりそうです。このパワーにあやかり病院の運営に努力して参ります。

1) 運営方針

鹿児島医療圏では2040～2050年頃までは、85歳以上の高齢者が増えていくと予想されております。当院の立ち位置として、まずは会員の先生方との連携、加えて介護施設との連携強化が重要になってくると考えております。高齢者救急に関しては、「在宅療養支援患者」の登録を行い、365日24時間いつでも受け入れる体制をとっております。高齢者救急に確実に対応できる体制整備と共に、会員の先生方からの救急対応は勿論のこと、鹿児島市内3救急救命センターの後方支援医療機関としての役割も果たして参ります。

①病床稼働について：

入院病床は昨年4月から128床で運用しております。なお令和元年より許可病床は199床でしたが、昨年9月に12床を減じて187床となりました。

病床稼働率は85%前後で推移しており、厳しい医療環境のなかで経営の健全化が急務となっております。そのため病棟体制の再検討を行うとともに、高齢化に迅速に対応しうる病床運用を進めて参ります。「高齢者救急」、「高度急性期医療機関の後方支援」と共に、「在宅診療支援」を強化し、年間を通じて安定した病床稼働率を保てるように努めて参ります。

②経費の見直しについて：

医療材料の値上がりに加えて、水道・光熱費、食材費、業務委託費など様々な経費の上昇により、1病床あたりの経費は過去20年で約1.5倍となりました。また建物の経年劣化による維持・管理にかかる経費も増加しております。ただ公定価格である医療費だけでは、このような様々な物価高騰に対しての対応は難しいものがあります。国の速やかな支援強化を期待しつつも、職員一丸となりできる限りの経費削減に努めて参ります。

③増収対策について：

緩和ケア科患者（悪性疾患）を対象とした在宅診療の強化、難病患者に対する在宅診療・介護への取り組みなどに対応するため、在宅支援室を強化し、外来収入の増加に努めて参ります。また婦人科良性疾患の手術、乳腺・甲状腺外科手術の増加に対しては、引き続き注力する考えです。

2) 診療体制

①緩和ケアと在宅診療

当院は鹿児島医療圏内で最も多い31床を有しており、高度急性期病院の鹿児島市立病院、鹿児島大学病院をはじめ多くの医療機関の皆様と連携させて頂いております。コロナ禍を契機として、在宅での看取りを希望する患者、ご家族が増えて参りました。またできるだけ長く自宅で過ごし、最期は病院にお願いしたいという希望もあります。このような要望に応えるため、在宅と入院をシームレスに運用するため、在宅医療の充実を図って参ります。

また難病などにより外来診療、在宅診療を依頼される症例も増えております。このような事例に対応するためにも、在宅診療は欠かせなくなっております。馬見塚医師、在宅支援室を中心に確実に先生方の依頼にお応えできるような体制整備

を進めて参ります。これまで通り、地域の先生方との連携を第一に患者、ご家族のご意向に従って対応させて頂きます。引き続き宜しくご支援をお願い致します。

②循環器内科

昨年4月からは急性冠動脈疾患治療から心不全の治療とその後予想される緩和医療への対応に移行致しました。常勤医2名で従来と変わらない充実した診療体制で臨んでおります。これまで同様に、会員の先生方からのご紹介、ご相談をお待ちしております。

③総合内科と救急対応

会員の先生から要望の強かった「総合内科」を開設して2年が経過致しました。できるだけ多くの先生方のご紹介に対応できるよう、脳神経内科中川部長を中心として初診受付時間を月曜日～金曜日の午前8時半～午後3時までとしております。上記以外の時間帯につきましては、当日のオンコール医師、当直医師が対応致しますので、遠慮なくご相談下さい。症状や疾患に応じて、全病院体制で臨むと共に、上位医療機関と連携し対応して参ります。

昨年の冬季においては、鹿児島医療圏のみならず県内全体で感染症患者に対する救急搬送が逼迫する事態となりました。当院においても、二次救急指定病院としてできる限りの協力体制を続けて参ります。

④乳腺・甲状腺外科

令和6年2月から高濱哲也医師が担当し、乳腺・甲状腺外来をスタート致しました。昨年10月までの21か月で、乳腺疾患44例、甲状腺疾患21例、その他9例の合計74例の手術を施行しました。年間30例の手術を目標として参りましたが、年間42例ペースとなりご紹介頂いた先生方に感謝致します。循環器系、脳神経内科系疾患を併存する高齢な患者でも、当院の総合力で対応させて頂きます。さらなる症例増加のためにも是

非ご紹介をお願い致します。

⑤呼吸器外科外来

呼吸器外科外来は、昨年11月から第2、第4火曜日午前中と、第1、第3、第5金曜日午前中に診療しております。鹿児島大学呼吸器外科外来のサテライトとして運用し、術後検診、内服の抗がん剤治療も担当しております。また緩和ケア科との連携により、「大学での手術・治療」から「当院での緩和ケア」までのシームレスな対応を心がけております。

呼吸器疾患に関して、健診・検査後の精査目的なども含めてご紹介、ご相談をお待ちしております。

⑥婦人科

婦人科は昨年10月から常勤医師3名と鹿児島大学からの手術応援医師の体制で良性疾患の腹腔鏡手術に特化した診療を行っております。県内外から多くの患者様をご紹介頂き、手術症例も増加しております。できるだけ多くの患者様の診療に対応できるよう、会員の先生方との連携を密にしながら運営して参ります。手術を希望される多くの初診患者様のためにも、術後の検診については会員の先生方との連携・ご協力をお願いしております。引き続き宜しくお願い致します。

⑦後期研修プログラム

令和6年4月より後期研修プログラム「総合診療科」の募集をスタート致しました。現時点で研修中の医師はおりませんが、来年度より研修を希望する医師がおります。また研修希望の医師を継続して募集しておりますので宜しくお願い致します。「総合内科」を柱として、内科系・外科系専門医も協力し全病院体制で指導・育成に努めて参ります。鹿児島市医師会員の先生方には、小児科、整形外科、在宅診療を中心に協力頂く体制を整えております。さらに鹿児島大学病院、県立大島病院、種子島医

療センターの先生方にもご協力・ご指導を頂きながら育成して参ります。会員医療機関の後継者育成の一助にもなればと考えております。

3) まとめ

当院を取り巻く医療環境は昭和59年6月の開院時とは大きく変化しております。病院設立時の執行部はじめ会員の先生方の志を引き継ぎ、現状に合わせた「会員の、会員による、会員のための」共同利用施設としての役目を果たすべく頑張参ります。

特に「高齢者救急」への対応、「地域包括ケアシステム」による連携と「緩和ケア」までのシームレスな医療体制を継続し、会員の先生方、介護関連施設の方々、患者様とご家族にも信頼され安心して利用して頂ける病院を目指して参ります。

結びにあたり鹿児島市医師会員の先生方、ご家族、職員の皆様にとって実りある1年となりますことを祈念しつつ、本年も旧年にも増してご指導賜りますようお願い申し上げ、新春のご挨拶とさせていただきます。